

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜城北高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和7年2月12日（水） 13:30～15:30
- 3 開催場所 岐阜城北高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	神谷 政人	岩野田まちづくり協議会	事務局員
副会長	河野 隆	はなぞの北幼稚園	園長
委員	菊池 啓子	中部学院大学短期大学部	教授
	前田 吉彦	岐阜北ロータリークラブ	
	中村 有希	ファッションデザイナー	
	後藤 美雪	本校PTA副会長	
学校側	和田 摂子	校長	
	田内 俊文	教頭	
	柴田 幸美	教頭	
	高井 和子	事務長	
	車戸 祐介	教務主任	
	福島 和世	生徒指導部長	
	井口 貢志	進路指導部長	
	杉山 貴大	総合学科長	
	杉山 福美	生活デザイン科長	

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和6年度自己評価について

- ・教務部
- ・生徒指導部
- ・進路指導部
- ・学科の取組（地域連携、教育活動）

(2) スクールミッション、スクールポリシーについて

(3) 意見

- 意見1：・企業との探究活動は、とても良ことであると感じた。来年度も協力企業が増えると聞いたが、多くの企業に御協力いただけることはとても喜ばしいことだ。
- ・人との会話、コミュニケーションはとても大切である。地域行事への参加、または地域の者が来校するなどして、学校と地域が協力して生徒を育てていくようにしたい。岩野田地区は、岐阜城北高校のOBがたくさんいる。是非、その地域人材を活

用してほしい。

- ・学び直しはとても必要であると考え。今まで以上に実施したほうがよい。小中学校では「学びの部屋」を設け、放課後に勉強する場を設けている。高校生版を考え実施してみてもどうか。

意見2：・色々なところで、昨年度、今年度の見直しをされている。PDCAサイクルで学校を回していかれることは理想であると思う。

- ・コミュニケーション能力はとても大切である。数値で測れる認知能力は、分かりやすく評価がしやすいが、数値では測ることのできない非認知能力は、行事や物事への取り組み、様々な活動で育てられる。それらに一生懸命取り組み、その姿勢が認められ、達成感や充実感などにつながる。認めて育てることが大切である。

意見3：・教育の激変期である。感性や応用力が必要となる時代。社会の変化に対応した教育を進めていかななくてはならない。

- ・小・中・高・大学のつなぎ、流れがよくないと社会人としての対応力が遅れる。そこは危機感を持っている。岐阜城北高校は多種多様な学びを行う先陣を切った学校であると感じた。どのような生徒が育っていくかが楽しみである。
- ・学科、系列、コースを超え、交流し合いながら化学反応を起こす。相乗効果を狙う授業であると感じた。

意見4：・先生方の深い専門的な教育を受けられるところが素晴らしい。生徒が一生懸命やれるのは、先生方が熱心に指導されるからこそその結果である。先生方の熱意が生徒に伝わっていると感じる。

意見5：・将来の夢が定まっていない学生たちが岐阜城北高校で3年間学んだことで、将来の活躍の様子が想像できる、何事も熱心にできる生徒が育っていると思う。

- ・自習室や友達と一緒に学べるスペースがあるといいなと思う。
→職員室前に教員に質問するスペース（机、いす）がある。また、進路資料室や図書館などでも放課後に勉強することができる。
- ・本人のやる気次第かと思うが、周りの友人に左右されるところがあるため、よい事に誘導されるといいなあと感じている。

意見6：・身だしなみ指導があるが、注意されていること全てがダメなことではないと思う。

- 時代の流れとしては、個性を尊重するという風潮であるが、本校は探究活動や地域の方々と連携するなど、外部企業とのやり取りも多い。社会では依然として身だしなみに関してとして厳しく、身なりをきちんと整えること、制服はきちんと着こなしてほしいと思っている。時間をかけて職員一同、意思統一のもと、指導をしていきたいと考えている。

6 会議のまとめ

- ・スクール・ミッション、スクールポリシーを最終提案し、承認を受けることができた。
- ・本校の教育活動、学科の取組について、様々な視点からのご意見をいただいた。改善が必要なところは速やかに対応し、今後の活動に活かしていきたい。